

2. 履修体系

商学部カリキュラムの概要（5学系）

商 学 部 専 門 科 目	導入科目	アカデミック・リテラシーⅠ アカデミック・リテラシーⅡ ビジネス・トピックス				
	入門科目	簿記学Ⅰ・Ⅱ 基本統計学 現代ビジネス				
	学系基礎科目Ⅰ	経済学	商業学	国際経済学	経営学	会計学
	学系基礎科目Ⅱ	ミクロ経済学 マクロ経済学 計量経済学 商業史	流通論 マーケティング論 金融論 証券論	貿易論 貿易業務論 国際金融論 国際商取引論	経営管理論 経営組織論 経営戦略論 経営史	簿記学Ⅲ 工業簿記Ⅰ 財務会計論 監査論
	学系展開科目	経済変動論 市場と人間 経済統計分析 戦略の経済学 日本商業史 現代商業史 オペレーションズ・リサーチ	商品学 観光論 交通論 物流システム論 消費者行動論 マーケティング・リサーチ 貨幣論 銀行論 金融政策論 ファイナンス論 資本政策論 保険論 リスクマネジメント 商業・金融のための統計数理 [13、14年度生] 金融システム論 [15年度生～]	世界経済論 現代国際金融 経済統合論 欧米経済論 発展途上国経済論 アジア経済論 国際ビジネス・コミュニケーション論 国際電子商取引論 貿易契約論 貿易外国語（英） 貿易外国語（中）	労務管理論 生産管理論 現代企業論 公企業論 中小企業論 経営分析論 経営統計論 ビジネス・リサーチ 国際経営論 技術経営論 事業システム論 コーポレート・ガバナンス論	簿記学Ⅳ 工業簿記Ⅱ 財務諸表論 制度会計論 情報会計論 管理会計論 原価計算論 税務会計論 国際会計論 財務諸表監査 財務諸表分析
	展開科目	展開特講科目	展開特講科目	展開特講科目	展開特講科目	展開特講科目
	実践科目	実践科目				
	専門外国語科目	外国語講読（英） 外国語講読（他） Business English 専門外国語特講				
	演習科目	演習Ⅰ 卒業研究演習Ⅰ	演習Ⅱ 卒業研究演習Ⅱ	演習Ⅲ 卒業研究演習Ⅲ		
	隣接科目	社会・経済・法律科目				
	教養科目	全学共通教養科目（一般教養・語学・体育）				
	自主選択科目	大学コンソーシアム京都単位互換科目等				

◆ 卒業必要単位について

商学部では本学の学則及び一般内規にしたがい、**4年以上在学し、126単位以上を修得した学生**に対し、学位記(卒業証書)が授与される。商学部が定めた卒業必要単位の内訳は下記のとおりである。この内訳にしたがって各類で必要とされる単位数を修得しなければならない。

[商学総合コース]

(数字は単位数)

1類	導入科目	4単位以下		
2類	入門科目	4科目登録必修 6単位以上	6	
3類	学系基礎科目Ⅰ	5科目登録必修 8単位以上	8	
	学系基礎科目Ⅱ	各学系から2単位以上	10	
4類	学系展開科目	主学系4単位以上 ※1 副学系4単位以上	20 ※2	80 以上
5類	実践科目			
6類	専門外国語科目		2	
7類	演習科目	演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、卒業研究演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ		
8類	隣接科目			
9類	教養科目	全学共通教養教育科目(同志社科目、キャリア形成支援科目、国際教養科目、クリエイティブ・ジャパン科目、人文科学系科目、社会科学系科目、自然・人間科学系科目、複合領域科目、プロジェクト科目、保健体育科目)		12以上
10類	外国語科目	全学共通教養教育科目の外国語教育科目(英語、ドイツ語、フランス語、中国語、スペイン語、ロシア語、コリア語)から2カ国語選択 ※3	各8	16以上
11類	自主選択科目	他学部設置科目 大学コンソーシアム京都単位互換科目 同志社女子大学単位互換科目 全学共通教養教育科目の外国語教育科目 等		18以下
合計				126以上

※1 主学系・副学系の選択は、3年次春学期の登録時に行う。

※2 選択した主学系・副学系から合計20単位以上を履修すること。

※3 全学共通教養教育科目の外国語教育科目のうち10類外国語科目として修得すべき科目が決まっているので注意すること。

[フレックス複合コース:専門特化型*]

(数字は単位数)

1類	導入科目	4単位以下		70 以上
2類	入門科目	4科目登録必修 6単位以上	6	
3類	学系基礎科目Ⅰ	5科目登録必修 8単位以上	8	
	学系基礎科目Ⅱ	各学系から2単位以上	10	
4類	学系展開科目	主学系10単位以上	10	
5類	実践科目		20 ※1	
6類	専門外国語科目		2	
7類	演習科目	演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、卒業研究演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ		
8類	隣接科目			
9類	教養科目	全学共通教養教育科目(同志社科目、キャリア形成支援科目、国際教養科目、クリエイティブ・ジャパン科目、人文科学系科目、社会科学系科目、自然・人間科学系科目、複合領域科目、プロジェクト科目、保健体育科目)	12以上	
10類	外国語科目	全学共通教養教育科目の外国語教育科目(英語、ドイツ語、フランス語、中国語、スペイン語、ロシア語、コリア語)から1カ国語選択 ※2	8以上	
11類	自主選択科目	他学部設置科目(副専攻パッケージ科目を含む) 大学コンソーシアム京都単位互換科目 同志社女子大学単位互換科目 全学共通教養教育科目の外国語教育科目 等	36以下	
合計			126以上	

* 専門特化型・副専攻型いずれかの履修型の選択及び主学系の選択は、2年次春学期の登録時に行い、変更がある場合は3年次春学期の登録時に受付ける。

※1 4類学系展開科目のうち、選択した主学系科目のみが20単位数に算入される。

※2 全学共通教養教育科目の外国語教育科目のうち10類外国語科目として修得すべき科目が決まっているので注意すること。

[フレックス複合コース:副専攻型*]

(数字は単位数)

1類	導入科目	4単位以下		70 以上
2類	入門科目	4科目登録必修 6単位以上	6	
3類	学系基礎科目Ⅰ	5科目登録必修 8単位以上	8	
	学系基礎科目Ⅱ	各学系から2単位以上	10	
4類	学系展開科目	主学系10単位以上	10	
5類	実践科目			
6類	専門外国語科目		2	
7類	演習科目	演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、卒業研究演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ		
8類	隣接科目			
9類	教養科目	全学共通教養教育科目(同志社科目、キャリア形成支援科目、国際教養科目、クリエイティブ・ジャパン科目、人文科学系科目、社会科学系科目、自然・人間科学系科目、複合領域科目、プロジェクト科目、保健体育科目)	12以上	
10類	外国語科目	全学共通教養教育科目の外国語教育科目(英語、ドイツ語、フランス語、中国語、スペイン語、ロシア語、コリア語)から1カ国語選択 ※1	8以上	
11類	自主選択科目	他学部設置科目(副専攻パッケージ科目を含む) 大学コンソーシアム京都単位互換科目 同志社女子大学単位互換科目 全学共通教養教育科目の外国語教育科目 等	36以下 ※2	
合計			126以上	

* 専門特化型・副専攻型いずれかの履修型の選択及び主学系の選択は、2年次春学期の登録時に行い、変更がある場合は3年次春学期の登録時に受付ける。

※1 全学共通教養教育科目の外国語教育科目のうち10類外国語科目として修得すべき科目が決まっているので注意すること。

※2 選択した副専攻パッケージから10単位数以上を修得すること。

◆フレックス複合コース専門特化型、副専攻型について

フレックス複合コースの学生は、2年次春学期の登録時において、「専門特化型」・「副専攻型」いずれかの履修型の選択及び主学系の選択を行う。なお変更がある場合は、3年次春学期の登録時に受付ける。

各型の特徴は、次の通りである。

専門特化型:

- ・商学部の専門科目において関心のある領域を重点的に学べるよう4類学系展開科目で履修をする主学系の単位比重を多く配分する。
- ・フレックス複合コースの学生は、選択した「主学系」の4類学系展開科目から合計10単位以上の単位修得が卒業要件のひとつになっているが、専門特化型を選択した場合は、さらに10単位以上を、選択した主学系科目(4類学系展開科目・5類実践科目・6類専門外国語科目)から修得し、合計20単位以上を修得しなければならない。また主学系科目(4類学系展開科目・5類実践科目・6類専門外国語科目)から合計30単位以上を修得した者には、認定証を交付する。

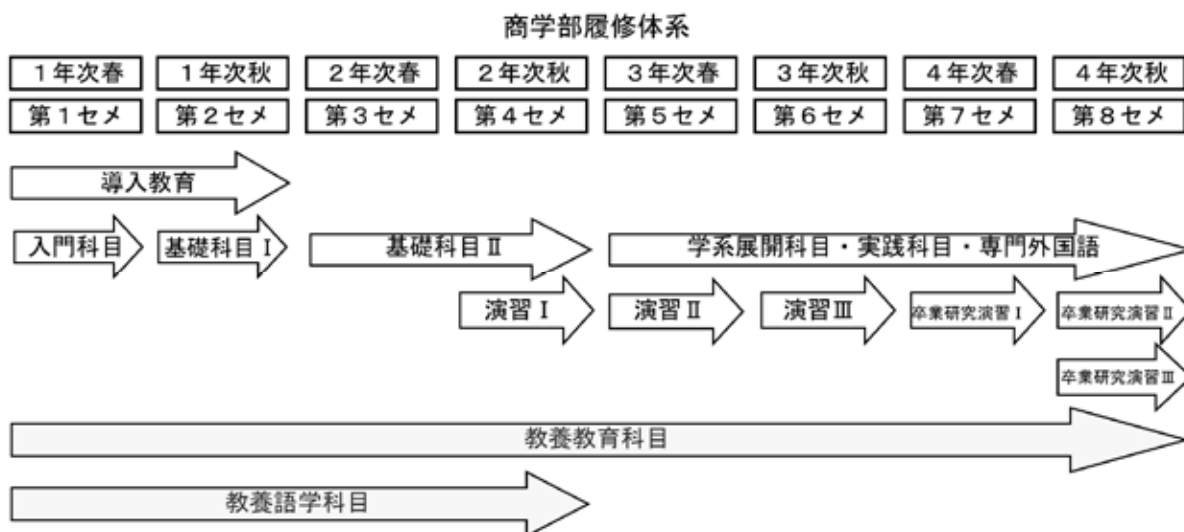
副専攻型:

- ・商学に加えて、法学や社会学などの周辺領域や教職、国際など多様な将来像に応えた科目選択が可能となった柔軟な型である。自主選択科目に配置している他学部科目等に6つの「副専攻パッケージ」が用意されているので、1コースを選択する。
- ・副専攻パッケージの科目は、10単位以上修得することを卒業要件とする。
- ・副専攻パッケージの科目を20単位以上修得した者には、認定証を交付する。

なお、履修の要件については、前頁に掲載されているので参照すること。

副専攻型の学生が選択する「副専攻パッケージ」については、【3. 履修要領ーフレックス複合コースー 11類自主選択科目 ▶副専攻パッケージについて】の頁を参照すること。

◆標準的年次別履修例



卒業必要単位を修得するための標準的年次別履修例を以下に示す。下表はひとつのモデルケースである。参考にして履修の計画を立てること。下表は卒業に必要な最低限の科目・単位の配分を示している。次頁以降に示す各年次別の最高(最低)登録単位数の範囲内で、余裕を持って登録履修すること。

教養科目・外国語科目は1, 2年次に優先的に登録履修することが望ましい。なお、在学中に公認会計士などの資格試験の受験を希望する学生は、それぞれの受験資格に注意すること。

[商学総合コース]

(数字は単位数)

	1年次		2年次		3年次		4年次		計
	春	秋	春	秋	春	秋	春	秋	
1類 導入科目	2	2							80
2類 入門科目	6	2							
3類 学系基礎科目 I		10							
学系基礎科目 II			10	10					
4類 学系展開科目					6	6	4	4	
5類 実践科目					2	2			
6類 専門外国語科目					2				
7類 演習科目				2	2	2	2	4	
8類 隣接科目									
9類 教養科目	4		2	2	2	2			12
10類 外国語科目 英語, ドイツ語, フランス語, 中国語, スペイン語, ロシア語, コリア語から 2か国語選択	①外国語	2	2	2	2				8
	②外国語	2	2	2	2				8
11類 自主選択科目			2	2	4	4	4	2	18
合計	16	18	18	20	18	16	10	10	126

[フレックス複合コース: 専門特化型]

(数字は単位数)

	1年次		2年次		3年次		4年次		計
	春	秋	春	秋	春	秋	春	秋	
1類 導入科目	2	2							74 ※1
2類 入門科目	6	2							
3類 学系基礎科目 I		10							
学系基礎科目 II			10	10					
4類 学系展開科目					4	6	4	2	
5類 実践科目						2			
6類 専門外国語科目					2				
7類 演習科目				2	2	2	2	4	
8類 隣接科目									
9類 教養科目	4		2	2	2	2			12
10類 外国語科目 英語, ドイツ語, フランス語, 中国語, スペイン語, ロシア語, コリア語から 1か国語選択	2	2	2	2					8
11類 自主選択科目	2	2	4	4	6	6	4	4	32
合計	16	18	18	20	16	18	10	10	126

※1 卒業必要単位数は 70 単位

[フレックス複合コース:副専攻型]

(数字は単位数)

	1年次		2年次		3年次		4年次		計
	春	秋	春	秋	春	秋	春	秋	
1類 導入科目	2	2							70
2類 入門科目	6	2							
3類 学系基礎科目 I		10							
学系基礎科目 II			8	8					
4類 学系展開科目					4	6	4	2	
5類 実践科目						2			
6類 専門外国語科目					2				
7類 演習科目				2	2	2	2	4	
8類 隣接科目									12
9類 教養科目	4		2	2	2	2			
10類 外国語科目 英語, ドイツ語, フランス語, 中国語, スペイン語, ロシア語, コリア語から 1カ国語選択	2	2	2	2					8
11類 自主選択科目	2	2	6	6	6	6	4	4	36
合計	16	18	18	20	16	18	10	10	126

II 商学部での履修の目安方について

◆ 最高・最低登録単位数

それぞれの学期において最高・最低登録単位数の範囲内で登録履修することができるが、年間最高登録単位数を超えることはできない。

[商学総合コース, フレックス複合コース共通]

	1年次		2年次		3年次		4年次	
	春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期
年間最高登録単位数	40		44		40		48※	
学期最高登録単位数	30	30	34	34	30	30	46※	46※
学期最低登録単位数	10	10	10	10	10	10	2	2

※2013年度生のみ4年次年間最高登録単位数は52単位まで可。

学期最高登録単位数は50単位まで可。

◆商学部早期卒業制度について

【制度の趣旨】

商学部では、学業成績の優秀な学生に、大学院商学研究科において早期により高度な学習・研究機会を与えることを目的として、早期卒業制度を実施している。

【卒業要件】

早期卒業をするためには、下記の要件をすべて満たさなければならない。

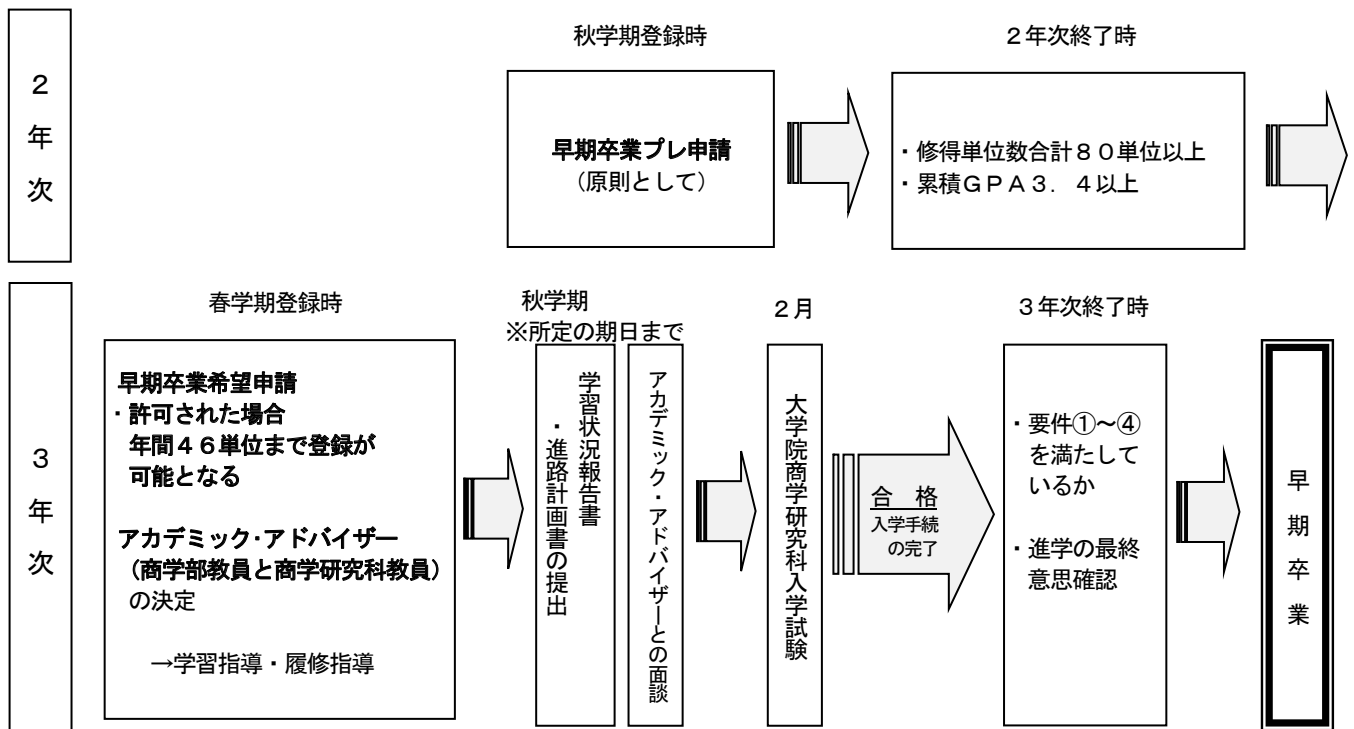
- ① 3年次終了時において、本人が早期卒業を希望していること。
- ② 3年次終了時において、卒業に必要な所定の単位(126単位)をすべて修得していること。
- ③ 3年次終了時において、累積GPAが3.2以上であること。
- ④ 3年次終了時において、本学商学研究科への進学が確定していること。

○3年次転入学生、編入学生、学士入学については早期卒業の対象とならない。

○3年間で休学等の学籍異動が生じた場合は早期卒業の対象とはならない。

【申請について】

申請の流れは下記のとおりである。



※希望する学生または興味を持っている学生は、2年次秋学期までに商学部・商学研究科事務室に相談すること。

◆5年一貫教育プログラムについて（2016年度以降生のみ対象）

【制度の趣旨】

ビジネス活動は、情報化・グローバル化などの変化がもっとも鮮明に現れている先端領域です。ビジネスの倫理と環境保全、非営利組織の発展など、新しい課題も生じています。同志社大学商学研究科は、こうした各分野における多様な変化に積極的に対応し、広く産業社会が要求する課題の解決に努めることを教育の目的としています。

本プログラムは、学部4年次に生まれる時間的余裕を大学院へのステップとして有効に活用することで、本研究科をめざす勉学意欲の高い学部生が大学院へ進学しやすくなる学修環境を提供するものです。学部から大学院へと継続的に指導を受けることで、幅広い視野と深い専門知識を修得し、国内外の企業・産業が直面する諸課題を理解・分析できるような幅広い知見を得ることを通じて、高度な専門知識を必要とする職業人の養成を目指します。

さらにより深い研究を目指す学生に対しては、研究基礎科目、学部・大学院の演習科目の連携などを通じて、より深い学識と専門的研究能力を身につけ、修士学位取得後、研究者を目指して博士後期課程へ進学するという選択肢を広げることのできる制度です。

意欲ある学生が本プログラムを利用し、教員の指導を受け、高度な専門知識の修得を目指してくれることを期待しています。

【プログラム概要】

- ・学部4年間＋大学院1年間の5年一貫教育のプログラムです。
- ・従来の飛び級制度のように学部を中退する必要がなく、卒業・修了要件を満たせば通算5年間で学士と修士の学位を取得することが可能です。
- ・学部4年次に大学院科目を先行履修することができます。履修した科目は、大学院入学後、大学院の科目として単位認定することができます。

その他、募集・選考等の詳細につきましては、別途商学部掲示板(至誠館1F)にて案内いたします。

